

# 氏家克典の これがオススメ!!

みなさん、こんにちは! 氏家でございます。先月からスタートした「氏家克典のこれがオススメ!!」。  
私の独断(!)と偏見(笑)による誌面&ムービー連動形式でお届けします。DTMマガジン読者必読のレアなシンセからピンテージキーボードまで、ハード/ソフト問わず極上のプロダクツを仮想体験させちゃいます! ではレッツ・スタート!!

氏家克典

作編曲、プロデュース、音楽コンサルティング、音楽ソフトウェア企画制作、国内/海外デモンストレーション、研修、後進育成、連載執筆など、その活動は多岐に渡っている。手掛けたTVCM音楽/楽器内蔵デモ曲は数百曲、デモ演奏/研修で訪れた国々は15ヶ国以上に及ぶ。日本シンセサイザープログラマー協会(JSPA) 副理事長

## 第02回 Rhodes Mark7

動画でわかる!!  
「氏家克典」チヨイスの  
“超オススメ”プロダクトムービー



### Products information

#### Rhodes Mark7

(ローズ マークセブン)

価格: Standardモデル・光沢仕上げ(61鍵、アンプなし、MIDIなし): 57万7,500円(税込)

~ Active/MIDIモデル・ラバーコーティング仕上げ(88鍵、FETアンプ内蔵、MIDI対応): 98万7,000円(税込) ※18モデルのラインナップ

■61鍵、73鍵、88鍵の3モデル ■光沢仕上げの「Glossy」とラバーコーティング仕上の「Road Touch」を選択可能

■カラーはホワイト、レッド、ブラックの3色を選択可能 ■販売: 山野楽器海外事業部

### StandardからActive MIDIまで 各種モデルをチェック!

Rhodes Mark7には、61/73/88 keyの3種類の鍵盤、ボリュームとトーンのためのスタンダード、プリアンプ付きのアクティブ、MIDI機能付きのアクティブの3タイプ、外装仕上げは赤、白、黒の3色で艶あり、艶消しのバリエーションがあります。もちろん専用スピーカーも用意されています。

- Sシリーズ 一般的なエレキギターと同様のパッシブ回路(ボリュームとトーンのみ)を搭載したモデル
- Aシリーズ アクティブ回路(イコライザーやトレモロをコントロール可能なプリアンプ)を搭載したモデル
- AMシリーズ アクティブ回路にプラスしてMIDIコントロール機能(USB、MIDI端子)を搭載したモデル



スタンダード・タイプ



MIDIコントローラー部分



MIDI機能付きモデルには、鍵盤の右サイドにピッチベンド、モジュレーションのホイールがあります。



オプションのスピーカー・システム(赤、白、黒の3色あり)。

### エレピの代名詞! Rhodesとの出会い

今回紹介するのは、私の人生を変えた楽器「Rhodes(ローズ)」です。

実は私、学生時代にはベースを弾いていました。で、当時出入りしていた楽器店でポロポロとキーボードを弾いていたところ、その名物店員(今やこの方は全国展開楽器チェーン店の社長!)の方に「氏家~! お前キーボードやれ!」と言われ、「まずこれを聞いてコピーしろ!」と渡されたレコードが、クルセイダーズのライブアルバム「SCRATCH(スクラッチ)」でした。さらに「あのレコードでジョー・サンプルが弾いているは、これだ!」と教えられたのが、楽器店内に展示してあった「Rhodes mark1」のステージ・ピアノです。もちろん「お前はこれ買わなきゃダメ!」と、言われるがままにローンを組んで購入していました(笑)。

でも、これをきっかけに私のキーボード人生がスタートし、ミュージシャン、アレンジャーとしてプロのキャリアをスタートし現在に至るわけです。

ということで、私にとって思い入れの深い「Rhodes」がMark7となって登場したのですから、このコーナーで紹介しないわけにはいきません!

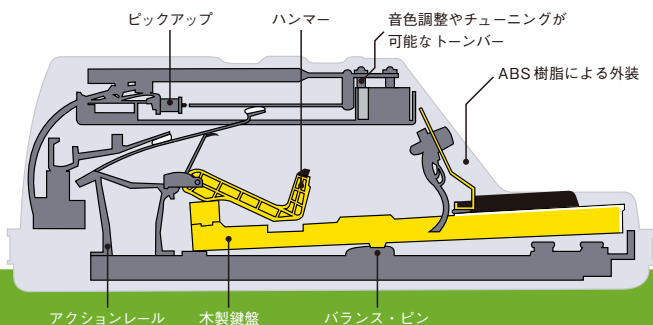
### ミュージシャンを虜にした Rhodesサウンドの魅力

ローズピアノの父、ハロルド・ローズ氏がフェンダー社のRhodesブランドとして1965年に発表したのがその歴史の始まりです。

その後、ジョー・サヴィナル、マイルス・デイビス、チック・コリア、ハービー・ハンコック、ジョージ・デュークのような伝説的ジャズミュージシャンたちがこぞって使用したことで、そのサウンドは瞬間にポピュラーになりました。

ビートルズの「Get Back」、スティビー・ワンダーの「You Are The Sunshine of My Life」、ビリー・ジョエルの「Just The Way You Are」は特に有名ですね。ジェフ・ベックのアルバム「Blow by Blow」では全編、マックス・ミドルトンによるRhodesサウンドが炸裂しています。もちろん私の大好きなSteely

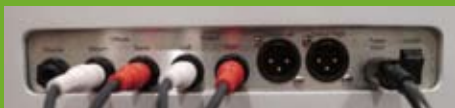
■ Rhodesの発音機構の断面図 (Mark 6)



■ Rhodes Mark 7 外観および内部



■スピード、深さのコントロールが可能なステレオ・トレモロも健在。トレモロは以前の矩形波的变化から、正弦波と矩形波の中間のような緩やかな変化となっています。



■左サイドに出力端子、ヘッドフォン端子、インサージョン端子がありますが、コーラスやフェイザーとの相性はホント抜群です。

Danは、どのアルバムでもRhodesが大フィーチャーされています。

トーンバーで得られる  
独特のアタックと持続音

なんとと言ってもRhodesサウンドの魅力は、実際に「トーンバー」という金属の棒をハンマーで叩き、その振動をピックアップで増幅することで得られる、アタックの金属音とふくよかで暖かみのある持続音に尽きます。

また、スピーカー付のスーツケース・モデルに搭載されたプリアンプによるバス/トレブルの音色コントロールやステレオで左右に揺れるトレモロも絶品でした。

Mark7でRhodesは  
どう進化したか？

まずは外観。見てください、この流線型ボディ！まるでイタリア車のような美しさです。トップカバーが車のボンネットのように優雅に開きます。もちろん発音機構は、オリジナルRhodesそのままのトーンバー打弦方式です。以前のバージョンよりもシャーシ、ハンマー機構、トーンバーの材質がかなり強化されており、調整やメンテナンスも万全でしょう。

以前はハンマーやトーンバーが折れ

やすく、シャーシもかなり弱くて移動のたびにひやひやしたものです。

今回紹介するのはプリアンプ内蔵のアクティブ回路搭載モデルですが、このプリアンプの出来が素晴らしい。以前のスーツケース型のプリアンプとは雲泥の差です。

それもそのはず、以前はベースアンプのようなスピーカーを鳴らすために調整されたプリアンプでしたが、Mark7のプリアンプは、現代のハイファイ・モニタースピーカー環境を想定した調整が施されています。

メイン・ボリュームはもちろん、イコライザーはロー(低音域)、ミッド(中音域)、ミッド・フレクエンシー(中音域の周波数)、ハイ(高音域)が搭載されており、その作りの幅は70年代のコロコロしたサウンドから90年代後期のハンマーアタックによる金属音をカリカリに仕上げたサウンドまで、Rhodesで出せるすべてのサウンドキャラクターをカバーできる性能を持っています。

やはり本物は違う——  
DVD収録映像をチェック!

徐々にRhodesを思いっきり弾き倒しましたが、Rhodesを前にすると「よーし!」と構えるので、弾くフレーズやタッチによるダイナミクス

を十二分に生かした演奏スタイルになってしまいます。やはりこれは本物の楽器だからなんですね。

皆さんがよく電子ピアノやシンセサイザーのプリセットで耳にする「エレクトリック・ピアノ1」の音色は、このRhodesをサンプリングした音です。ただ、どうしてもタッチ感はグランドピアノの音色にベストマッチングするように鍵盤機構ができているので、Rhodes独特のタッチ感による音色の振る舞いの再現には自ずと限界があります。ぜひ、本物の楽器の振る舞いを体験していただきたい! 弱く弾いた時の繊細な響き、思いっきり強く弾いた時のトーンバーがしなる音や強烈な金属音のダイナミクスに、目からウロコ状態になること請け合いです。

Rhodes Mark7、まさしくホンモノのエレクトロニック・ピアノです!!



■近くにRhodesを試奏できる楽器店がない方は、ぜひ付録ムービーを見て、いかに私が気持ちよさそうに弾いているかをご覧ください(笑)!

What's "music track"? MUSIC TRACK!

本誌DVDに収録された動画番組は、音楽コミュニケーションサイト「ミュージックトラック」が提供しております。ミュージックトラックは、音楽を愛する人たちが情報を共有し、ステップアップしながら楽しむ、そんなコンセプトを持ったコミュニケーションサイトです。

URLはこちら ▶ <http://musictrack.jp/>

Rhodesの歴代機種

Rhodesは鍵盤部分だけのステージ・モデルとプリアンプ搭載の鍵盤部分/スピーカーで構成されるスーツケース・モデルの2種類に大別され、それぞれ73鍵/88鍵の2タイプがありました。機種の遍歴を見てみると以下となります。

▼ Rhodes創世期 1965年～  
カラリングがおしゃれなFender Rhodes CelesteやレトロフューチャーなStudent Modelが登場。

▼ Fender Rhodes Mark I 初期 1969～1975年  
フェンダーのロゴがついた希少バージョン。

▼ Rhodes Mark I 後期 1975～1979年  
FenderのロゴがなくなりRhodesブランドに。シルバーパネルで、丸みのあるトップカバー。私が所有していたのはこのモデル。

▼ Rhodes Mark II 1979～1983年  
ブラックパネルで重いキーボードを載せても大丈夫なように、トップカバーの形状が改良された。

▼ Rhodes Mark III EK-10 1983年  
イコライザーに加え、簡易シンセサイザー機能を搭載した希少モデル。

▼ Dyno-My-Piano 1974～1983年頃  
Rhodesのハンマーアタック感をより強調した調整やEQやエフェクターを内蔵した改造も出現。これはさまざまな人物、会社が独自に改造した。中でもChuck onteという人物が手掛けたDyno-My-Pianoというネーミングでの改造が特に有名。

▼ Rhodes Mark IV 1983年  
結局、世には出なかった幻のモデル。Rhodesブランドの売却、買収に伴う諸問題や新規ハンマーアクションの開発における過程での試行錯誤が尾を引き結局お蔵入りに。

▼ Rhodes Mark V 1984年  
より頑丈な外装が特長な新型に。MIDI付プリアンプ内蔵モデルもあった。

▼ Rhodes MK-80 1990年  
RhodesブランドがRolandに移って発売された電子音源方式の製品。事実上のMark 6。

氏家克典のこれがオススメ!!